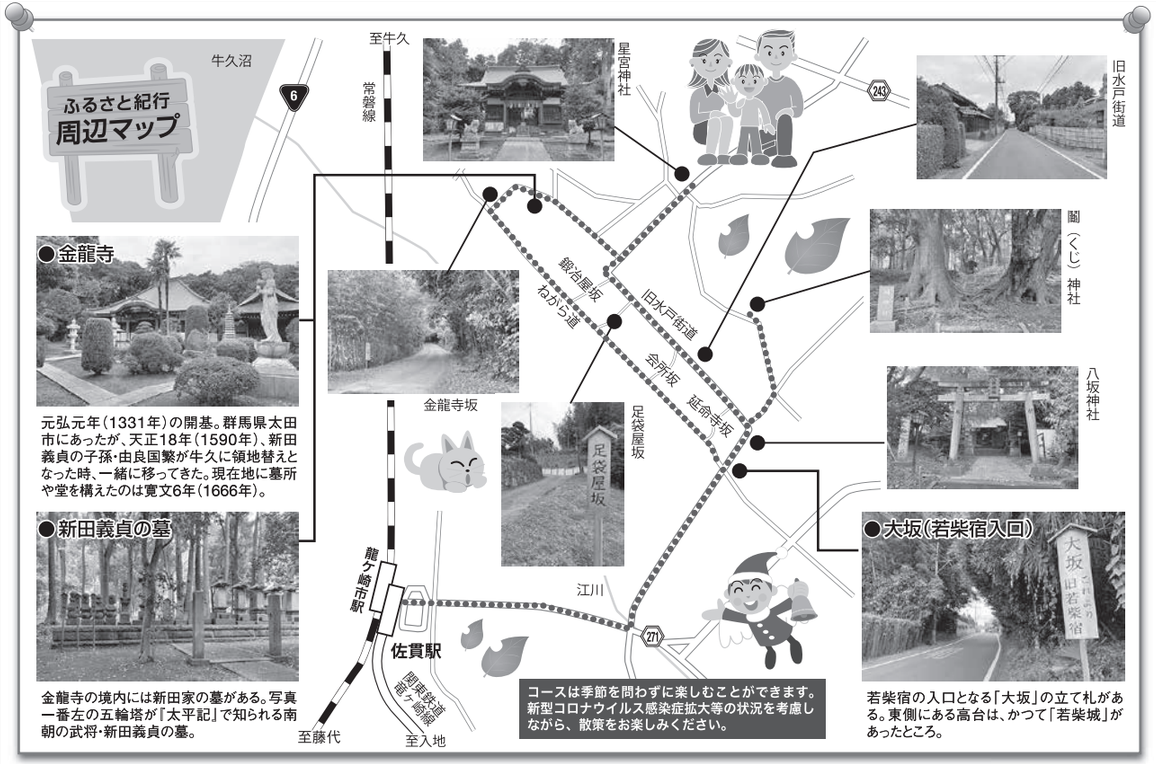

●散策コース●

今回は水戸街道の宿場町だった若柴地区を巡る散策コース。まずは駅の東口から龍ケ崎市停車場線を進み、江川のある交差点を左折する。この道が旧水戸街道。しばらく歩くと緩やかな坂となり、「大坂」の立て札が見える。若柴宿の入口で、少し進むと八坂神社が鎮座する。街道が左に大きくカーブすると若柴宿のメインストリートで、今も当時の面影を残す。北側にはくじや学問にご利益があるといわれる「鬮（くじ）神社」がある。若柴宿のメインストリートをさらに進み、街道が右に曲がる正面には新田義貞の墓があり、「牛になった小坊主」の伝説で有名な金龍寺がある。勤行を怠り、牛になった小坊主の尻尾で作られた払子（ほっす）は寺宝とされている。さらに進むと北斗七星や北極星を名前の由来とする星宮神社があり、若柴宿の案内板がある。駅に戻る際は、竹が美しい金龍寺坂を下って「ねがら道」を通ってみよう。椎や樫が生い茂る道は、12月から4月にかけて椿が美しく咲き誇る。

駅に戻ったら竜ヶ崎線で市の中心部に向かい、名物の「龍ケ崎コロッケ」を味わいたい。

名物・龍ケ崎コロッケ
【写真提供：龍ケ崎市】

●お問い合わせ／龍ケ崎市シティセールス課 ☎0297（64）1111（代）　●企画・制作／読売茨城広告社☎029（244）5555

Vol.129

駅からのふるさと紀行　関東鉄道竜ヶ崎線

佐貫（さぬき）駅

入地（いれじ）

●次回は1月22日の掲載予定です。

※イラストはイメージです。

働く人と、世界を走る。
ISUZU
茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp

広告

●竜ヶ崎線のホーム。奥に見えるのはJR常磐線龍ケ崎市駅のホーム。

龍ケ崎市マスコットキャラクター まいりゅう

●単式ホームで1面1線

●駅の入口

江戸時代から交通の拠点・馴柴 今は常磐線と龍ケ崎市中心街をつなぐ

令和2年3月、JR常磐線「佐貫駅」は「龍ケ崎市駅」と名称を変えた。一方で、隣接する関東鉄道竜ケ崎線の佐貫駅は、今も佐貫駅のままだ。佐貫駅のホームはJR常磐線龍ケ崎市駅東口の駅ビル内にある。龍ケ崎市といえば「コロッケ」で有名だが、JRから関東鉄道に乗り換えて龍ケ崎市の中心地に向かう人のために、コロッケの足型で案内しているのが面白い。関東鉄道と龍ケ崎市などで構成される「龍ケ崎MaaS推進協議会」では、令和5年の1月から3月にかけて、デジタルチケットなどで市内の周遊を促す「龍ケ崎MaaS実証実験」を実施する予定である。

佐貫駅の歴史は竜ヶ崎線が開通し、常磐線の新駅として設置された明治33年に始まる。「佐貫」の名称は龍ケ崎市の字名で、設置当初は馴柴村に属した。駅の北東にある馴柴村の若柴地区は水戸街道の宿場町で、今も名残を見ることができる。